

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「スマホで決済、ローソンが実験」
 - 2) 「座ってスマホで食事注文 三菱地所、フードコートで導入」
 - 3) 「韓国のコンビニ“CU”、業界初“サムギョプサル自販機”導入 全国に拡大へ」
-

1) 「スマホで決済、ローソンが実験」

ローソンはスマホで来店客が自ら会計する実験を始める。23日から5月末まで都内3店舗で実施する。スマホの専用アプリで商品のバーコードを読み取って決済する仕組みで、レジの混雑を嫌う消費者のニーズにこたえる。深夜帯はスマホ決済のみとすることで、店舗のレジ業務の負担も減らす。

スマホ決済サービス「ローソンスマホペイ」を始める。実験店では日中は通常レジと併用し、午前1時から4時まではレジを無人にしてスマホ決済のみとする。

5月末まで「ローソン晴海トリトンスクエア店」（東京・中央）など都内の3店で実験する。利用状況などを検証し、スマホ決済の需要が見込める全国の店舗に順次、導入する。

話題となった無人コンビニ「アマゾンゴー」のように完全無人とまでいかなくても、比較的来店者も少ない深夜帯だけを無人にする動きは今後加速していきそうだ。ただ、スマホ決済となると「スマホ」を持った人しか利用できないということになる。近い将来一人一台スマホを持つことを見据えるとこのサービスは最先端だが、いまはまだ万人が利用できるセルフレジのほうが需要はあると言えるかもしれない。

2) 「座ってスマホで食事注文 三菱地所、フードコートで導入」

三菱地所は16日、商業施設のフードコートで飲食物の注文や決済を事前にできるスマホ向けアプリを一部の施設で導入する。客は注文のために席を離れる必要がなくなり、店で商品を受け取るだけで済むようになる。フードコートの混雑解消や飲食店の業務効率化につなげる。

スマホ向けアプリ「タノモ」はITベンチャーのスカイファーム（横浜市）とEPARKテイクアウト（東京・豊島）が共同開発した。三菱地所リテールマネジメントが管理・運営する商業施設「南砂町ショッピングセンターSUNAMO」（東京・江東）のフードコートで先行導入する。

「東京とんこつラーメン 池袋屯ちゃん」と「カレーの市民 アルバ」の2店舗でまず導入する。SUNAMOは小さな子どもを連れた客が多い。注文時に席と店舗を往復する煩わしさを減らし、快適に食事ができるようにする。

今後は三菱地所グループが運営する他の商業施設への導入も検討する。

このアプリ導入で「並ぶ」「払う」の煩わしさがなくなり、一人の場合も席取りが簡単になり、店側も調理に専念でき…と良いことづくめだと思う。今の時代では当たり前の「スマホ・アプリ」によるシンプルな解決法だ。何かと行列をつくる文化だが、アプリ一つで随分といろいろな問題が解決するのではないかと思う。人手不足が叫ばれる中ならなおさらだろう。

3) 「韓国コンビニ“CU”、業界初“サムギョプサル自販機”導入 全国に拡大へ」

韓国のコンビニ「CU」サムソンシウォン店に3月23日、業界初のサムギョプサルを販売する自販機が導入された。

韓国農協と通信社KTなどが共同で開発した同自販機は、熟成冷蔵庫と自販機を結合した冷蔵無人販売プラットフォーム。スクリーンタッチ方式で、レジで会計しなくても新鮮な肉を気軽に購入できる。

農協で認定を受けた1等級サムギョプサルをはじめ、家庭での需要が多いスープの材料、ブルコギ用の部位などを販売。コンビニの主な顧客層である1-2人世帯が負担なく購入できるよう、一般の精肉店や大型マートとは違い300グラムほどの少量包装が基本となる。

IoTの活用により、モバイルアプリを通じて冷蔵庫の温度、湿度、賞味期限などの品質管理情報をリアルタイムで確認もできる。

サムソンシウォン店で試験運営し、その後全国の店舗に拡大する。1人世帯の増加により、韓国では食料品、日用品をコンビニで購入する人の割合が増加。昨年「CU」では、農産物の売り上げが前年対比19.9%増、畜産物の売り上げは24.2%上昇した。

日本で言う「焼肉用の肉」や「すきやき用の肉」のひとり分が買えるというおもしろい自販機だ。ただニュースを読む限り本当に肉だけの販売なので野菜や調味料は別途で買わないといけないようだ。スマホやセルフレジのように登場当初は物珍しいものでも時間が経つにつれ当たり前のものになるかもしれない。コンビニ店内に無数の自販機が並ぶのも近い将来現実となりそうだ。